

MIYATEEN XIV

思い出巡り



宇都宮の高校生のための
読書情報誌 Vol.14

～不思議な思い出～

「後宮の鳥」(集英社オレンジ文庫)



白川 紺子／著 集英社

後宮の奥深くに、妃でありながら夜伽をすることのない「鳥妃」と呼ばれる特別な妃がいた。彼女の名は寿雪。怪しげな術を使い、誰にも会うことはなく、ひっそりと暮らす孤独な存在。そんな少女・寿雪が皇帝や後宮の妃たちと関わっていくお話。白川紺子さんが描く中華ファンタジー小説。

感想 初めのうちは謎多き孤高の存在、といった雰囲気だった寿雪が、人と関わり、人の優しさに触れて、変わっていく様子がとてもおもしろい。物語の核心部分に迫っていくことで見えてくる真実に鳥肌が立ちました。(にいっち)



「鎌倉うずまき案内所」(宝島社文庫)



青山 美智子／著 宝島社

不思議な力に導かれて、迷える人々が辿り着いたのは「鎌倉うずまき案内所」。仕事や結婚、大切な人からはぐれてしまった人々を案内してくれるのは、双子のおじいさんと謎のアンモナイト。螺旋階段のように平成を遡りながら、悩める人々が人生の軌道を修正していく物語です。あなたの「気づき」が「奇跡」に変わります。

感想 思いすぎて空回りしたり、上手く伝えられなくて煮え切らない態度をとってしまったり、感情に振り回されてしまうことがよくあります。けれどそれは、決して悪いことではないのだと、この本が教えてくれました。(ヒビキ)

「秘密」(文春文庫)



東野 圭吾／著 文藝春秋

杉田平介の妻・直子と小学生の娘・藻奈美を乗せたバスが転落事故を起こす。娘をかばい亡くなった妻の葬儀の後、娘に宿っていたのは死んだ直子だった。その日から杉田家では優しくも苦い「秘密」の日々が始まった。

感想 杉田家の秘密の生活が始まってから、娘・藻奈美を媒介とした切ない毎日に心が締め付けられました。徐々に直子が消え本当に藻奈美へと移り変わる時、あなたも涙が止まらないはずです。(もとすけ)

「宝石商リチャード氏の謎鑑定」(集英社オレンジ文庫)



辻村 七子／著 集英社

主人公・正義は苦労人な大学生。酔っぱらいに絡まれていた美しい宝石商・リチャード氏を助け、彼にいわくつきのピンク・サファイアの鑑定を依頼する。ピンク・サファイアの謎が解ける時、正義は何を思うのか。敏腕宝石商リチャード氏とバイトの正義が宝石にまつわる謎を解決していくジュエル・ミステリー!

感想 リチャード氏の店「エトランジェ」のお客様の話やリチャード氏と正義の話すべてに感動しました。キャラが魅力的で正義くんが良い人すぎる!宝石の知識がなくても大丈夫。リチャード氏が分かりやすく説明してくれます。(彰)

「コクーン」

葉真中 顕／著 光文社



カルト教団の教祖の母である「わたし」は、死の間際に蝶になる。彼女は息子に絡め取られた人々の人生を追体験し、パラレルワールドを見た。もしあの日彼を産まなければ悲劇は起こらなかった?それとも私は正しかった?あるいは…。選択の数だけ、世界が、人生が存在する。呪われた母子を巡る、あまりにも苦しい因果の物語。

感想 読み進めるにつれて少しずつつながっていく物語に、ページをめくる手が止まりませんでした。暗くて重たい話だけれど、読了後にはなんだか世界と向き合えたような、なんとも言えない気持ちになりました。(きむち)



「テスカトリポカ」 佐藤 究／著 KADOKAWA



麻薬カルテルの縄張りを奪われた密売人バルミロは、資金調達法として子供の心臓売買に目をつけた。日本で事業を始めた彼は、天涯孤独の少年、土方コシモの才能を見込み、引き入れる。何も知らない人々を巻き込んだ犯罪の背後には恐るべき『アステカ』の神の影……。愛と狂気、そしてそれを生み出す神とその奴隷の物語。

感想 読み始めたら止まらない、国境を越えた犯罪に家庭問題、麻薬、臓器売買、さらには人を狂わせる程に魅了する遥か昔の神々…。恐くて仕方がないのに魅力的、本当に心臓を鷲掴みにされたような気分で夢中になりました!(きむち)

～優しい思い出～

「和菓子のアン」



坂木 司／著 光文社

食べることが大好きな杏子は、デパ地下の和菓子店「みつ屋」で働き始める。個性的な店長や同僚たちの中、歴史と遊び心に満ちた和菓子の奥深い魅力にはまっていく。意味深なお客さんたちの謎を和菓子とともに解き明かす、美味しいお仕事ミステリー。

感想 読んでくれる人を優しく、あたたかく包み込んでくれるストーリー。何度読んでもほっこりした気持ちになる。アンが少しずつ成長していく姿がとっても素敵！
(SALuT!)

「犬がいた季節」



伊吹 有喜／著 双葉社

1988年夏の終わりのある日、高校に迷い込んだ1匹の白い子犬は「コーシロー」と名付けられ、生徒とともに学校生活を送っていく。時代が昭和、平成、令和と移る中で、18歳の恋や友情にコーシローが寄り添う、温かくて切ない青春小説。読み終えた後に、本のカバーをはずすと…!?

感想 短編集のようにになっているが、話ごとに少しずつ繋がりが有り、日誌で受け継がれていることによって、時の流れを楽しめます。何度も読み返したくなる話です。
(もみじ)

「うたうおばけ」 くどうれいん／著 書肆侃侃房



「友達」は多くないけれど「ともだち」は多い著者が、毎日を彩ってくれる「ともだち」について綴っているエッセイ集。おまじないをかけた「パンコンのひと」や犬でバランスを保つ「瞳さん」、まっすぐでおかしい「からあげボーイズ」など個性的な「ともだち」が登場します。人気女優・上白石萌音さんもおすすめしています。

感想 「人間って怖い」と怯えていた時にこの本を読んで、私にも素敵な出会いがこれから訪れるのだと前向きな気持ちになりました。「ふふふ」となるポイントが多々あり、ページをめくるときに自分の心が穏やかになります。(ヒビキ)

「オオカミ少年♡こひつじ少女 お散歩は冒険のはじまり」 (小学館ジュニア文庫)



湖山 真／著
環方 このみ／原作・イラスト 小学館
中学生の女の子・冬華の愛犬ハスには秘密がある。それは人間の男の子に変身できること！冬華とハスの日常はドキドキの連続で毎日が冒険。

お散歩で出会った訳ありキャラとの笑って泣けるストーリーが3本立て。

感想 癒されたい人や動物好きにオススメです！冬華の愛犬ハスや可愛い動物が活躍する心温まるストーリーでした。漫画もあるので、合わせて読むともっと癒されますよ！(彰)

「そして、バトンは渡された」(文春文庫)



瀬尾 まいこ／著 文藝春秋

2人の母と3人の父をもつ高校生・優子。自由奔放で何度も夫を変える2人目の母・梨花は、ある日突然、優子を3人目の父・森宮に残して姿を消す。継父・継母が変わると名字も変わる。しかし、いつでも両親を愛し、愛された優しい物語。

感想 人それぞれ、愛情の表現方法は違うけれど、皆が優子を大切に思っているということが伝わってきた。特に梨花さんのこの言葉が好きだ。「楽しいときは思いっきり、しんどいときもそれなりに笑っておかなきゃ」(もみじ)

「めぐり逢いサンドイッチ」



谷 瑞恵／著
KADOKAWA

「サンドイッチって、再会を手伝える食べ物なのかも」とある姉妹が経営するサンドイッチ専門店『ピクニック・バスケット』。ここでは、心の奥底にある大切な人との思い出をサンドイッチがやさしく包み込んでくれる。

感想 自分のよく知る料理でも、パンに挟むとまた別の料理になる。サンドイッチだからこそ、苦い思い出もあたたかく感じられる。あなたもきっと、懐かしいあの料理をサンドしたくなる。
(SALuT!)



～幸福な思い出～

「ちいさな幸福」(講談社文庫)



角田 光代／著 講談社

「ねえ、今までで一番印象に残っているデートって、どんなの?」という問いから始まる短編集です。酒場で「おおげさですね」と笑い合った思い出、ぎこちない父との喫茶店での思い出、公園で恋人とパンを食べた思い出など、幸福な恋愛がリレー形式で語られていきます。読者の素敵なデートの思い出も収録されています。

感想 大人になると恋愛は、複雑になって下卑してくると思っていました。けれどこの本を読み、年を重ねても純粋に人を愛し、美しい時を過ごすことが出来るのだと感じました。私も「ちいさな幸福」を積み重ねていきたいです。(ヒビキ)

「フェルマーの最終定理」(新潮文庫)



サイモン・シン／著 青木 薫／訳 新潮社

天才と言われたフランスの裁判官であり数学者のフェルマーが「私はこの命題に対して驚くべき証明を持っているが、余白が狭すぎるのでここに記すことはできない。」という言葉を残して去っていった。350年以上もの間、数学者を悩ませた世界最難関と呼ばれた問題に人生をかけ挑んでいった数学者たちのドキュメンタリー。

感想 数学が得意でなくとも簡単な解説があるため読みやすいです。数百年も解かれることのなかったという事実にも屈せずまさに人生を掛けて挑む証明に、人類の尽きることない知的好奇心と不屈の精神を感じました。(梅の木)

「クジラの彼」有川 浩／著 角川書店



合コンで出会った彼は、次にいつ会えるかも分からない潜水艦(クジラ)乗り。いつだって2人の間には大きな海が横たわっている。「クジラの彼」のほか、自衛隊×恋愛のベタ甘制服ラブコメが全6作品も。有川浩がおくる最高の恋愛ドラマをご覧ください!

感想 有川浩さんは自衛隊の恋愛を描いた作品を複数書かれています。その中でも特に好きな作品です。かつてよくてかわいい彼女たちには憧れます!本編だけでなく、あとがきまでおもしろいので、ぜひ最後まで読んで下さい!(にいつち)

「まいにちハッピーエンド」



mumo.／著 日本文芸社

Instagramで人気のイラストレーター、mumo. によるイラストエッセイ。むもちゃんと年下の旦那さん・けんくんの幸せで満ち溢れた日々が、チャーミングなイラストで綴られる。1日の終わりに愛する人に「おやすみ」が言えたなら、どんな日だってハッピーエンド。

感想 むもちゃんがかawaii、けんくんもかawaii、会話もイラストも全てがかawaii。この夫婦、推せる...!読むとこちらまで幸せになれる、魔法の1冊。(SALuT!)

「今宵も喫茶ドーのキッチンで。」(双葉文庫)



標野 風／著 双葉社

路地の突き当たりにはひっそりと佇む、おひとりさま専用カフェ「喫茶ドー」。かぐわしい匂いに誘われてやってくるのは、毎日を一生懸命に生きるあまり疲れてしまった人々。人生が手に余るとき、店主の「そろり」が心を込めて、あなたの悩みの特効薬になる料理を作ります。コロナ禍の時代にも寄り添っている連作短編集です。

感想 人は疲れているときにこそ、新しい発見をするものなのかもしれません。下を向いてばかりの毎日におひさまを当ててくれるようなカフェが、私の日常にもあると良いなと思いました。この本を読めば心も体もほぐれます。(ヒビキ)

「本日は大安なり」



辻村 深月／著 KADOKAWA

人気結婚式の結婚式の1日を舞台に繰り広げられる話を描いた作品。様々な事情を抱えた4組の物語が同時進行していきます。

感想 辻村深月ワールドを楽しめる1作。最後までハラハラする結婚式ばかりで、一気に読んでしまいました。(光)

～切ない思い出～

「永遠のおでかけ」



益田 ミリ／著 毎日新聞出版

大切な人の命が残りわずかであることを知った著者は、普段通りの生活を送りながら、見落としていたささやかな幸せに気がきます。心に穴があいてしまった著者は、いつしか穴の中のはしごを懐かしさ、又は後悔と共に、降りられるようになります。亡きお父さんとの温かくも切ない思い出を、柔らかな文体で記したエッセイ集です。

感想 優しく、淡々と書かれているからこそ、当たり前になっていた人が永遠に出かけてしまったことへの深い悲しみが、胸に迫りました。涙が込み上げそうでも、遺された思い出を大切に生きる著者に、死の受け入れ方を学びました。(ヒビキ)

「一瞬を生きる君を、僕は永遠に忘れない。」

(スターツ出版文庫)

冬野 夜空／著 スターツ出版



カメラマンの息子輝彦はひよんなことからクラスの人気者、香織のカメラマンとなる。突如始まった撮影生活にふりまわされる輝彦だが、ある時、彼女が笑顔の裏で白血病と闘っていることを知り、ありのままの香織を撮りたいと決意を新たにす。しかし香織の病状は悪化の一路をたどり…。究極の純愛ストーリーがここに。

感想 たった2か月間でも、輝彦にとって香織に出会って彼女が亡くなるまでの2か月は、人生で一番輝いていたでしょう。2人の想いに胸が締めつけられました。(もとすけ)

「すべての季節に君だけがいた」(スターツ出版文庫)



春田 モカ／著 スターツ出版

延命治療のため、四季1週間ずつしか起きていられない美少女・青花と出会った、根暗なゲーマー少年・緑。ゲームを共通点に惹かれあっていく2人だが、青花の病状は悪化。新療法の兆しが見え、長い眠りについた青花にある悲劇が起ころ…。同じ時を過ごしたくとも過ごせない、そんな2人の切ない物語。

感想 コールドスリープという重い題材を中心に置いていながらも、ゲームの話題や青花の明るさで温かく進んでいく物語。しかし、最後は切なさの波が押し寄せてきて、2人の純粋な愛情に涙が止まらない。(もとすけ)

「ざんねんな万葉集」 岡本 梨奈／著

雪路 凹子／イラスト 飛鳥新社



万葉集は風流で美しい和歌だけではない。人間の欲望あふれる、ざんねんな歌もある。「分かる〜!」と共感できる和歌もあれば、「は?何言ってるの?」と全く共感できない和歌もある。現代人とさほど変わらない昔の人のダメさに笑ってしまう1冊。共感できる和歌が1個くらい見つかるかも?

感想 思っていたよりイタくて変態的な和歌ばかりで驚きました。著者・岡本梨奈さんの解説が面白いです!ところで、「大好きな君に踏まれたい」という訳の和歌があるのですが、あなたは共感できますか?私は……。 (彰)

「シロクマ係長の奇跡」(メディアワークス文庫)



鈴森 丹子／著 KADOKAWA

日常生活に疲れてしまったかつての幼馴染みのもとへ、ある日白くてでっかいお友達が現れる。のんびりして空気の読めないシロクマに初めは戸惑う彼らだが、いつのまにか背中を押してくれたことに気づく。別々の人生を歩み始めていた彼らが再集合したときに明かされるのは、切ない思い出。

感想 あなたにも、心の奥底にしまったままの大切な思い出があるだろうか。初心を忘れ、かつて好きだったものに苛立つ日が来るかもしれない。そんなとき、この本を思い出してほしい。きっとシロクマ係長が力をくれる。(SALuT!)

「今夜、世界からこの恋が消えても」

(メディアワークス文庫)

一条 岬／著 KADOKAWA



クラスメイトの流されるまま、美人生徒・日野真織に嘘の告白を仕掛けた神谷透。しかし彼女は、「お互い、本気で好きにならないこと」を条件に告白を受け入れるという。そして、本当に彼女への恋心が芽生え始めたころ、神谷は驚きの事実を知る。日ごとに記憶を失う病気の彼女との1日限りの恋の先にあるものとは。

感想 透が本当に真織を好きになってから明かされる彼女の病氣、前向き健忘。1日ごとに失われる記憶のはかなさを感じつつも、その恋の温かさに胸打たれる作品です。いつか死んで忘れるのに思い出を作る理由は、この小説にある。(もとすけ)

～大切な思い出～

「ノベライズ この世界の片隅に」(双葉文庫)



この史代／原作 蒔田陽平／ノベライズ 双葉社

昭和19年、広島出身の絵が得意な少女すずは18歳で嫁ぐ。戦争で苦しくても、夫・周作との愛や家族の団結、友達との絆、幼馴染みの想いを支えに懸命に生きる。だが、戦争は激しくなるばかり。そして昭和20年の夏、原爆が落とされる日がやってくる。戦争の中、懸命に生きる姿と深い人間関係を描いた作品。

感想

人間関係の大切さ、平和を祈る大切さ、人生を楽しむ大切さ、様々な当たりまえすぎて意識していない「大切」に気づける作品です。今こそ読んでほしいと感じます。ショッキングな描写は少なめです。(彰)

「掟上今日子の備忘録」



西尾維新／著 VOFAN／絵 講談社

どこへ居ても事件に巻き込まれ、その犯人のように扱われる冤罪体質の主人公・隠館厄介。行く先々で事件などに遭うたび探偵を呼び、冤罪で捕まることから逃れてきた。そんな彼が冤罪を晴らすため呼ぶ、一日ごとに記憶がリセットされるタイムリミットは1日の最速(催促)の探偵である探偵・掟上今日子のための備忘録。

感想

探偵・今日子さんの記憶は毎回リセットしてしまうので、何回目であろうと主人公とは初対面になってしまうことの切なさを感じた。主人公が冤罪をかけられる回数が尋常ではなく、職を転々とすることも不憫だと思った。(梅の木)

「ツバキ文具店」(幻冬舎文庫)



小川糸／著 幻冬舎

厳格な祖母に育てられ、彼女の亡き後もその辛い記憶から逃れられない鳩子。祖母・カシ子の後を継ぎ、鎌倉で文具店兼『代書屋』を営む鳩子のもとには、今日も風変わりの依頼がやってくる。依頼人たちやお隣のご婦人、ご近所のシングルファーザーとその娘。様々な人と関わる中で、鳩子は少しずつ祖母の想いを受け入れ始めていく。

感想

鎌倉の落ち着いた雰囲気とともに鳩子の成長が描かれていて、最後はちょっぴり切ない、心温まる本でした。美味しいお店や名スポットも沢山載っていて、読み終わったら鎌倉に行きたくなること間違いなし!! (きむち)

「いとしたべもの」(文春文庫)



森下 典子／著 文藝春秋

「たべものの味にはいつも、思い出という薬味がついている。」そう語る筆者の食べ物に関するエッセイ集です。人生の一部であるサッポロ一番みそラーメン、進化するカレー、記憶の中のメロンパン、豊かな黄色の芋ようかん…大切な人と食べた思い出の味。ほっこりとした可愛いイラストと共に、おいしい記憶が甦ります。

感想

おいしいを分かち合えることの喜びは、日々の幸せに直結していると感じました。おいしい思い出の数々に、お腹が空くこと間違いなしです。私たちは毎日、大切な人と大切な時を味わっているのだと思いました。(ヒビキ)

「オオカミ族の少年」(クロニクル千古の闇1)



ミシェル・ペイヴァー／作 酒井駒子／絵 さくま ゆみこ／訳 評論社

紀元前4000年の森で、巨大なクマの姿をした悪霊に襲われて命をおとした父との誓いを果たすため、案内役の子オオカミ・ウルフとともに「精霊の山」をさがす旅に出たトラク。何も知らない少年と小さな子オオカミ。1人と1匹の絆を描く壮大なファンタジー。クロニクル千古の闇シリーズ第1巻!

感想

私がファンタジー作品にハマるきっかけにもなった思い出の作品です。自然に囲まれた世界の壮大で繊細な描写が魅力的です。ファンタジーが好きな人には絶対に読んでほしい1冊!(にいつち)

「鬼人幻燈抄 葛野編 水泡の日々」



中西 モトオ／著 双葉社

江戸時代、幼くして妹と家を飛び出した甚太は、ある人に拾われ巫女守の職に就く。そこで、未来を語る鬼と出会う。江戸から平成へ、何百年にも渡る壮大なファンタジー。

感想

いつきひめを護るために刀を振り続ける甚太と妹、そして、いつきひめ。3人がお互いを想い合うばかりに起こってしまう悲劇とすれ違い。愛とは何かを考えさせられる大号泣必須の作品です!! (まふいー)

「カラマーズフの兄弟(上)・(中)・(下)」(新潮文庫)



ドストエフスキー／著 原卓也／訳 新潮社

主人公の父親は悪い方に有名な人物だ。その父親には3人の息子がいた。長男・次男・そして主人公の三男。ある日、父親が再婚し、兄弟が集められた。しかし、長男は再婚相手と一緒にいたいと考えていたので、さらに仲が悪化。そこで長男は父親殺しを計画したが、実行せず。その後、何者かに父親は殺され、父親殺しの容疑で長男は捕まる。

感想

カラマーズフの兄弟は宗教や倫理観を主題とした作品です。どの人物もかなり個性が強く、楽しく読めました。主人公の父親がかなり悪い方で有名であり、それをものともせずにいる主人公が強いなと思いました。(梅の木)

これから
つくる
思い出

START!

朝ご飯は？

ご飯派！

読書好き？

そんなに…

好き！

暇？

暇！

忙しい

物語は？

フィクション

ノンフィクション

「本好きの下剋上」

香月美夜／著 椎名優／イラスト
TOブックス



本以外に興味がない主人公の本須麗乃、地震で本棚の下敷きになり、押し潰されてしまう。気がつく、そこは地球ではなかった。その世界では紙もインクも高価で、とても手が出せるものではなかった。本はほぼ売っておらず、読めない。マインとして生まれ変わった主人公は本を読むため、周りを巻き込みながら本を作り、広めていく。

感想 何よりも本を優先する主人公に、私は本をどれだけ愛せるかで負けてしまったと感じました。常識を超えていく主人公に振り回される周りの組み合わせが面白く、何度も読みました。後日談に思わず笑いました。(梅の木)

「怪笑小説」

(集英社文庫)
東野 圭吾／著
集英社



満員の電車の中、役者のおっかけに精を出す未亡人、「UFOは化けタヌキ」説を唱える研究者…。クスッと笑えて、なんだか不気味なブラックユーモア「O笑小説」シリーズ第1弾。

感想 ブラックジョーク、皮肉、人間の醜さなどなど……。怪しくて少し怖いユーモアが散りばめられた短編集です。第2、第3作もぜひ！(きむち)

「海辺のカフカ
(上)・(下)」

(新潮文庫)
村上 春樹／著 新潮社



15歳の少年・田村カフカは、父にかけられたある呪いから逃れるため家出し、香川へ。一方、全く別のところで、猫と会話のできる老人・ナカタさんは、人から猫探しを頼まれる中で猫殺しの男に出会い、ある事からその男を殺してしまう。全く接点もないはずの2人の人生は物語が進むにつれ、しだいに重なり合い…。

感想 メタファー、すなわち隠喩を意味するこの言葉が、この物語を象徴する1語であることは間違いないでしょう。真相が1つも明かされることなく、読者の想像で進む物語。この奇妙さをあなたもぜひ！(もとすけ)

「教室に並んだ
背表紙」

相沢 沙呼／著 集英社



将来への不安、大人への不信任感、同級生に対する劣等感など悩みを抱える中学生が、本の出会いを通して変わっていく、全6篇の連作短編集。青春という重荷を背負う少女たちの心模様を描く、成長の物語。

感想 女子中学生というのは、自分を取り巻く環境、その小さなコミュニティだけが全てで、私自身、その狭い世界が大嫌いだった。この本を読んだ人には、学校だけがこの世の全てではないことを知ってほしいと思った。(にいつち)

今の気分は？

泣きたい

笑いたい

集中したい

「陽気なギャングが
地球を回す」

(祥伝社文庫)
伊坂 幸太郎／著
祥伝社



4人の銀行強盗たちは百発百中の最強チーム。今日も余裕でミッション完了…のはずだった!? せっかくの「売上」を、同業者(?)に横取りされてしまったのだ! 追っ手に死体、盗聴と不穏な陰が迫る中、4人は無事「売上」奪還に成功できるのか。

感想 登場人物たちの会話にクスッと笑える面白さが盛り込まれています。笑いどころ満載のシリーズ第1作目。(きむち)

「十角館の殺人」

(講談社文庫)
綾辻 行人／著
講談社



ミステリ研究会の7人が訪れたのは孤島・角島。建築家・中山青司が建てた十角館で起こる連続殺人。殺人鬼は研究会メンバーの中にいるのか。驚愕の結末が待ち受けています。

感想 新本格ミステリを語るには欠かせない作品。島と本土で行き来する展開にハラハラすること間違いなし。(光)

「夜が明けたら、
いちばんに
君に会いにいく」

(スターツ出版文庫)
汐見 夏衛／著
スターツ出版



信頼感抜群の優等生・茜を唯一「嫌いだ」と言う隣の席の青磁。自分の思っていることをきっぱりという青磁とは正反対な茜は、苦手だった彼に救われることになる。「言いたいことあるなら言っていんだ。俺が聞いてやる。」実は茜には、優等生を演じる理由があった。そして青磁もまた、秘密を抱えていて…

感想 最初は性格も反対で対立し合う2人も、徐々に距離が近づいていく。青磁が抱える秘密、そしてこのタイトルの本当の意味を知ったとき、あなたもきっと涙がとまらない。(もとすけ)

編集委員紹介

EDITOR'S NOTE

SALuT!

【編集長】
宇都宮海星女子学院高等学校
3年間編集に関わることができてほんとうに良かったです。今回も楽しかったです！



梅の木

【副編集長】
宇都宮中央高等学校

様々な方の支えに助けられ感謝しています。ありがとうございました。



ヒビキ

【書記】
宇都宮海星女子学院高等学校

紹介文を考えるのが楽しかったです。



もとすけ

【書記、ページリーダー】
文星芸術大学附属高等学校

みんなで協力してやれてよかったです。



もみじ

【ページリーダー】
宇都宮女子高等学校

紹介文を書くのが大変でしたが、多くの新しい本に出会えました。



光

【ページリーダー】
宇都宮清陵高等学校

貴重な経験ができて楽しかったです。



きむち

【ページリーダー】
宇都宮東高等学校

少し大変だったけどとても楽しかったです。これを読んだ誰かがもっともっと本を好きになってくれますように。



にいち

【イラスト】
宇都宮東高等学校

初参加でしたが、とても楽しかったです。新しい本とも出会えて良い経験となりました。



彰

【イラスト】
宇都宮清陵高等学校

表紙を担当しました!!
皆のオススメ本、ぜひ読んでください!!



まろいー

【イラスト】
宇都宮短期大学附属高等学校

他の学校の方や新しい本に出会えてとても楽しかったです。



編集委員募集

あなたも本の紹介をしてみませんか？
次号Vol.15でも高校生編集委員を募集します。
本好きの高校生の皆さん、ぜひご参加ください！
詳しくは中央図書館まで。

- ・ペンネーム
- ・役割[担当]
- ・学校
- ・感想

読めば
愉快だ
宇都宮

UTSUNOMIYA

宇都宮の高校生の
ための読書情報誌

MIYATEEN Vol.14

発行 令和5年1月 編集 MIYATEEN編集委員

ご意見・お問い合わせ 〒320-0845 宇都宮市明保野町7-57 宇都宮市立中央図書館 TEL028-636-0231



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。